

墨田区子ども・子育て支援事業計画策定のための インタビュー調査結果報告

平成 26 年 1 月 17 日

子育て計画課

目 次

1 発達に心配がある児童の保護者へのインタビュー調査の実施概要	1
① 目的	1
② 調査の概要	1
③ テーマ	1
2 発達障害者支援の背景	1
3 発達に心配がある児童の保護者への調査結果	2
① 回答者の家庭環境等属性	2
② 療育の必要性が分かった時期とその対応	2
③ 療育のメリット	3
④ 療育の不安	3
⑤ 相談先	3
⑥ 放課後や夏休み等長期休暇の過ごし方	4
⑦ 発達障害への理解	4
⑧ 保育・教育への希望	5
⑨ 墨田区の子育て環境の評価と希望	6
⑩ 区に対する要望	7
⑪ 発達に心配がある児童の保護者へのインタビューのまとめ	7
4 高校生へのインタビュー調査実施の概要	8
① 実施目的	8
② 実施方法等	8
③ テーマ	8
5 高校生へのインタビュー調査結果	8
① 家庭の状況	8
② 現在の生活の満足度	8
③ 家庭内の育児・家事の分担についての考え方	9
④ 家の用事(掃除・洗濯・食事の支度・買い物等)の手伝いの状況と考え方	10
⑤ 結婚観・家庭観	10
⑥ 職業観	12
⑦ 規範意識と家庭・地域社会	12
⑧ 区への希望	13
⑨ 高校生へのインタビューのまとめ	13

1 発達に心配がある児童の保護者へのインタビュー調査の実施概要

① 目的

墨田区子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、ニーズ調査では十分な把握が難しい発達に心配がある児童（自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害等いわゆる発達障害児）のニーズに迫るため、保護者に対して聞き取りによる調査を行いました。

② 調査の概要

懇談会形式により下表の通り実施しました。実施にあたっては事前に簡易な調査シートを配布しました（インタビュー当日に回収）。

実施日・時間・場所	参加人数	参加者	事務局
平成 25 年 12 月 13 日 午前 10 時～11 時 35 分 すみだリバーサイドホール	9 人	「みつばち園」通園児の保護者 1人 「にじの子」通園児の保護者 8人	子育て計画課 2人 障害者福祉課 2人 (株)ぎょうせい 3人

「みつばち園」：児童福祉法に基づく児童発達支援センター・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業所

「にじの子」：児童福祉法に基づく児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所

注：平成 24 年 4 月以降、児童デイサービス（Ⅰ型・Ⅱ型）は児童福祉法に基づく事業となり、未就学児童を対象とするものが児童発達支援（主にⅠ型）、就学児童を対象とするものが放課後等デイサービス（主にⅡ型）としてそれぞれ再編されました。

③ テーマ

療育の状況と支援について、保育・教育に望むこと、放課後の過ごし方、区への要望等

2 発達障害者支援の背景

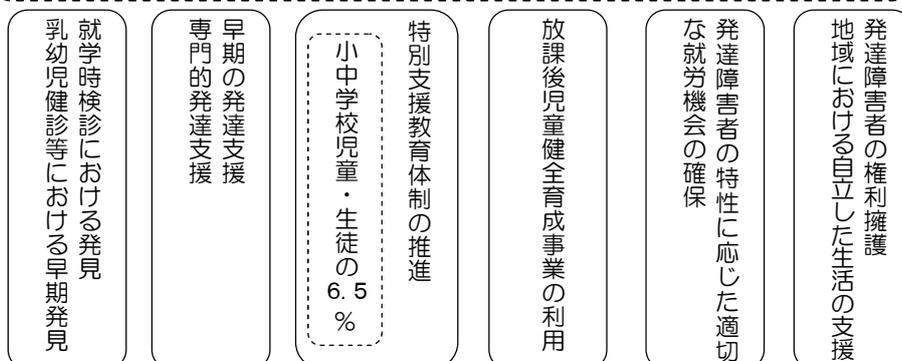
平成 17 年 4 月、発達障害者支援法の施行により国及び地方公共団体の責務が定められ、支援されることとなりました。発達障害は症状の発現後できるだけ早期に発達支援を行うことが特に重要であるとされています。

発達障害者支援法のねらい

- 発達障害の定義と法的な位置づけの確立
- 乳幼児期から成人期までの地域における一貫した支援の促進
- 専門家の確保と関係者の緊密な連携の確保
- 子育てに対する国民の不安の軽減

発達障害者支援法の概要

定義：発達障害とは、自閉症やアスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害などの、通常低年齢で発現する脳機能の障害

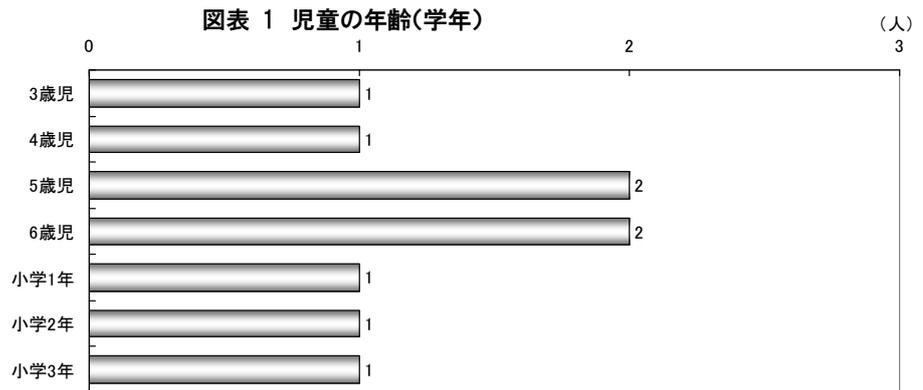


発達障害者支援センター 特定医療機関（都道府県）
専門的知識を有する人材確保 調査研究（国）

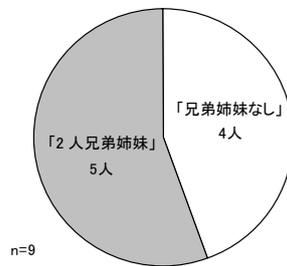
資料：厚生労働省

3 発達に心配がある児童の保護者への調査結果

① 回答者の家庭環境等属性



図表 2 兄弟姉妹の状況



ほとんどは児童の父母または母親が主たる養育者で、1人を除き専業主婦となっています。

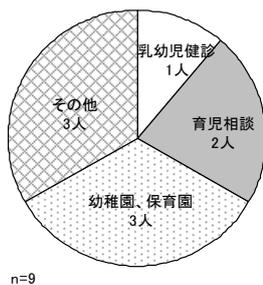
② 療育の必要性が分かった時期とその対応

療育の必要性が判明した時期は、1歳、1歳半が各1人みられますが、幼稚園、保育園通園期など3歳ごろに指摘されたケースも多くなっています。

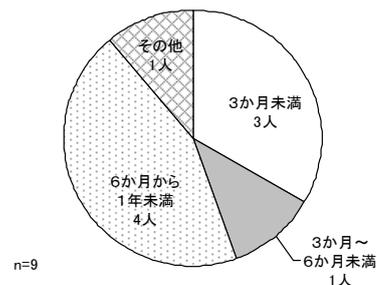
指摘されてから療育を始めるまでの時期は、“1年未満”がほとんどで、比較的短期間で決断したことがうかがわれます。

しかし、何回も保健所に相談したにも関わらず、療育施設を紹介してくれなかったなど不信感をもつケースや、幼稚園(私立・区立)を転園したが、どこからも発達障害とは認識されず、周囲から誤解されたケースもみられました。

図表 3 療育の必要性が示された時期(年齢)／左図



療育を始めるまでの期間／右図



③ 療育のメリット

生活のリズムや集団生活による子どもの成長を促進するとともに、発達障害への理解、相談先や情報共有、子どもの状況を冷静にみることができるといった保護者の安心感が高まったとする意見が多くみられました。

・療育クラスで子どもに接してくれる先生方をみて、前より子どもへの受け答えを考えるようになった
・子どもが少し落ち着いてきた ・仲間が出来た ・子どもの障害と早いうちに、向き合う事ができた
・子どもに対して、学習やソーシャルスキル・コミュニケーションを教える機会が増えた ・親の心配や悩みごとを相談できる機会が増えた
・ものすごく成長することができた ・家族の考え方が変わった
・子どもの集団での中の様子を知ることができた
・生活のリズムが出来た ・同じ悩みのママ友が出来た ・こだわりの悩みやサポートを先生がしてくれた
・早くから自分の子の特徴などが理解でき、親も子どもも安心できる ・信頼できる相談機関ができた
・相談窓口ができた ・情報が入りやすくなった
・家庭や園での生活で行動に問題があるときの言葉のかけ方、悩みをノートに書いてそれに対するアドバイスをいただけることに感謝 ・発達障害について親が勉強する機会があるので、わが子がなぜ問題とされる行動をとるのか理解できるので冷静に対応できるようになった

④ 療育の不安

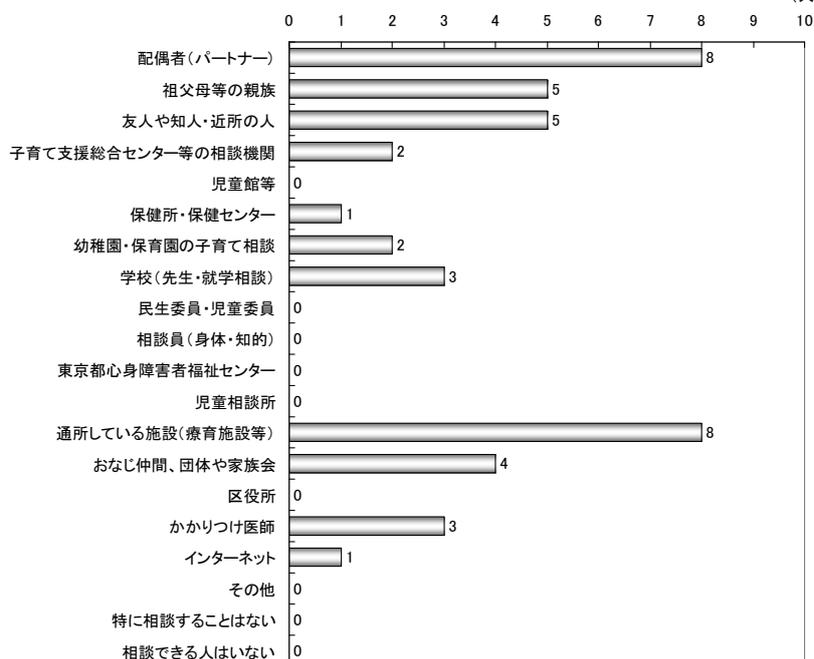
小学4年生以上になると受け皿がなくなるのではないかと不安が募っています。中学生までみてもらいたいとする希望がありました。また、療育への期待感の反面、成果を焦る様子もうかがわれます。

・にじの子では小学3年生までしか療育が受けられない、療育を受けられる回数が少ない
・4年生以上になった時の相談先
・小学校へ入学すると、通所の回数が減ってしまうこと、4年生～5・6年生の思春期になると体も大きくなり不安
・ある程度は成長したが、それ以後、成長している感じがしない、子どもが療育を拒否し始めている

⑤ 相談先

相談相手（先）としては、「配偶者（パートナー）」と「通所している施設（療育施設等）」が同数（8人）となっています。そのほか祖父母等や友人・知人など親しい間柄が多いですが、同じ悩みがある保護者間の相談も少なくありません。

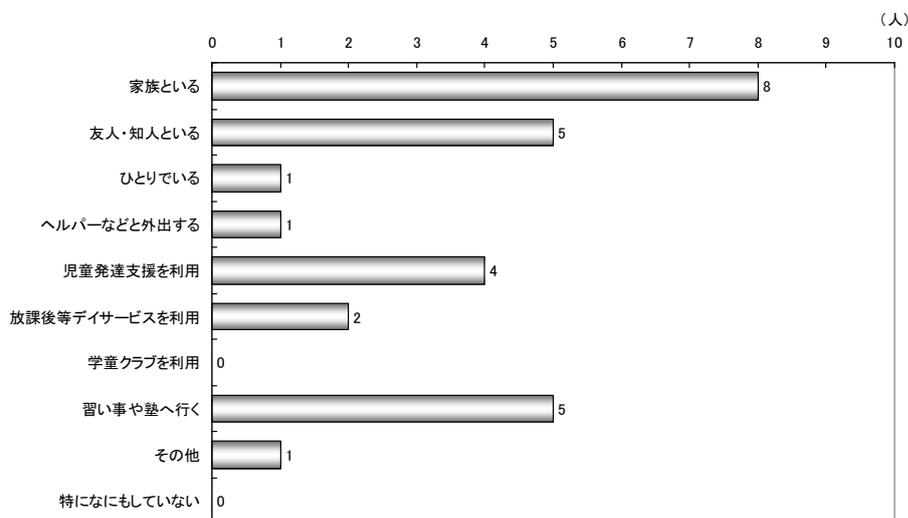
図表 4 子育てする上で、気軽に相談できる人はいますか、また相談できる場所等がありますか
(人)



⑥ 放課後や夏休み等長期休暇の過ごし方

「家族といる」が最も多いものの、「友人・知人」「習い事や塾」「児童発達支援」など様々な接点を工夫している様子がみられます。民間の学習支援塾に通う家庭も多く見受けられました。

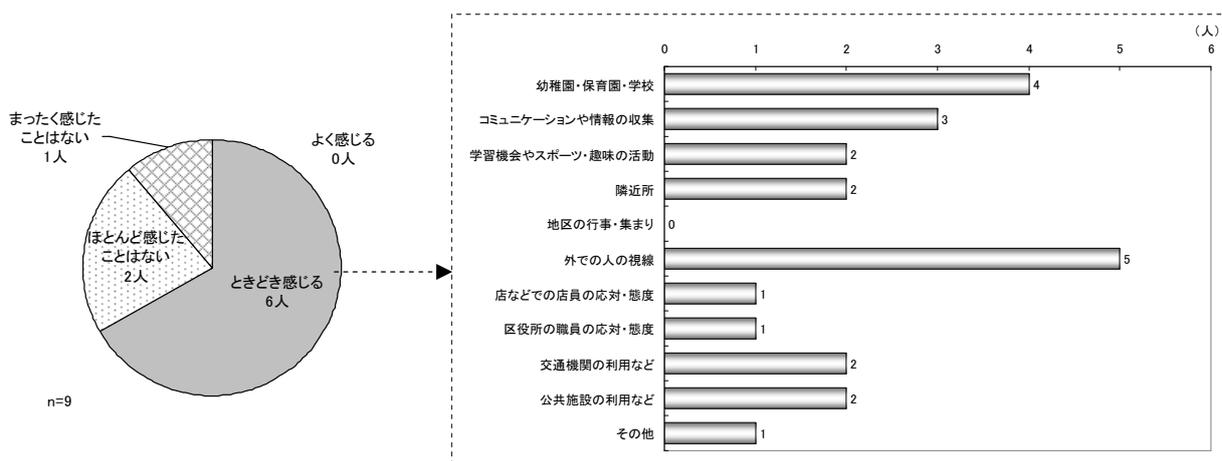
図表 5 放課後や夏休みなどの長期休業中に、幼稚園、保育園、学校以外ではどのように過ごしていますか



⑦ 発達障害への理解

差別や偏見について、「ときどき感じる」が6人と最も多く、感じる場面としては、「外での人の視線」に次いで「幼稚園・保育園・学校」が挙がっています。発達障害についての知識がないために、園や保護者から「乱暴な子」としてみられたこと、父親（夫）の理解が得られず、家族内でもしばしば隠すとする人も少なくありませんでした。

図表 6 差別や偏見などを感じることはありませんか(左図) 感じる場面はどこですか(右図)



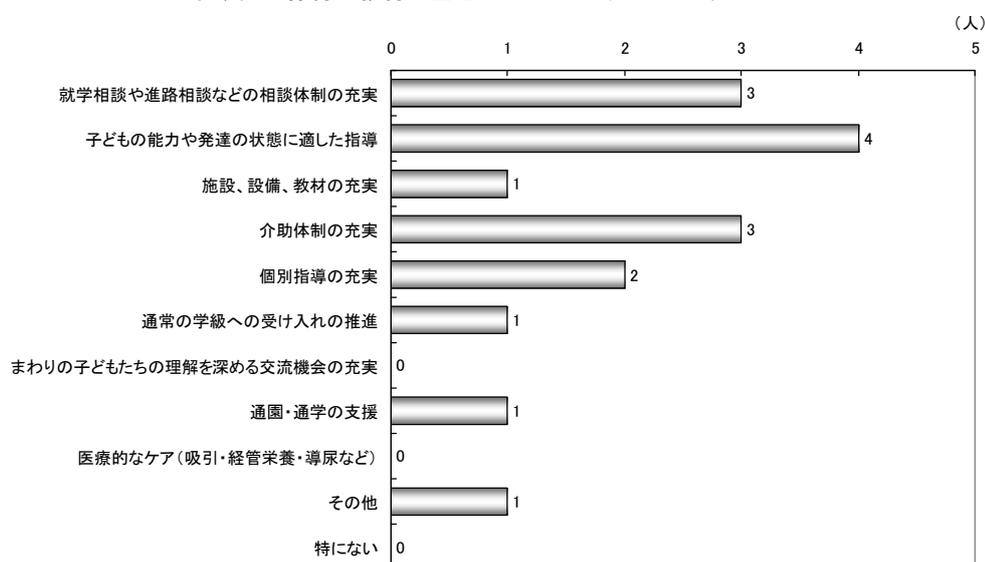
⑧ 保育・教育への希望

「子どもの能力や発達の状態に適した指導」「就学相談や進路相談などの相談体制の充実」「介助体制の充実」などの希望が多くみられましたが、発達段階で必要な支援は変わるはずなど、選択肢を限定して回答を選ぶことは不可能との意見も聞かれました。

そのほか以下のような具体的な要望等が提示されました。(一部事実と異なる内容もございますが、インタビュー対象者の発言のまま掲載しています。)

- ・ 幼稚園、保育園は抽選ではなく、就学相談のように障害の程度を考慮して決定すべきではないか
- ・ 保育園と幼稚園の支援枠のバランスを考え直してほしい(軽度の児童が支援枠で入っているのではないか)
- ・ 幼稚園は介助員の人数で発達障害の入園数が決まるので人数が多いと抽選となるが、落ちた場合でも通園できる距離の園を紹介してほしい

図表 7 保育や教育に望むことはどのようなことですか



⑨ 墨田区の子育て環境の評価と希望

区の子育て環境について、事前調査シートによる回答結果は下図の通りです。

“概ねそう思う”（評価する）が“概ねそう思わない”（評価しない）を上回った項目は、「③ 小児医療や救急医療体制が整っている」「② 健康維持や健診など、母子への保健サービスが充実している」「⑱ 保育園や幼稚園の費用の負担軽減が充実している」でした。

一方、「⑤ 生涯にわたる生きる力をつける教育環境が整っている」「⑩ 子どもの虐待の防止にむけた対応が充実している」「⑬ いじめや差別などの問題に向き合い、積極的に関わっている」では“概ねそう思わない”が7人と多くの方がマイナスイメージをもっていることがわかりました。さらに「⑭ 仕事と子育てを両立しやすい環境が整っている」では9人全員が“概ねそう思わない”と回答しています。

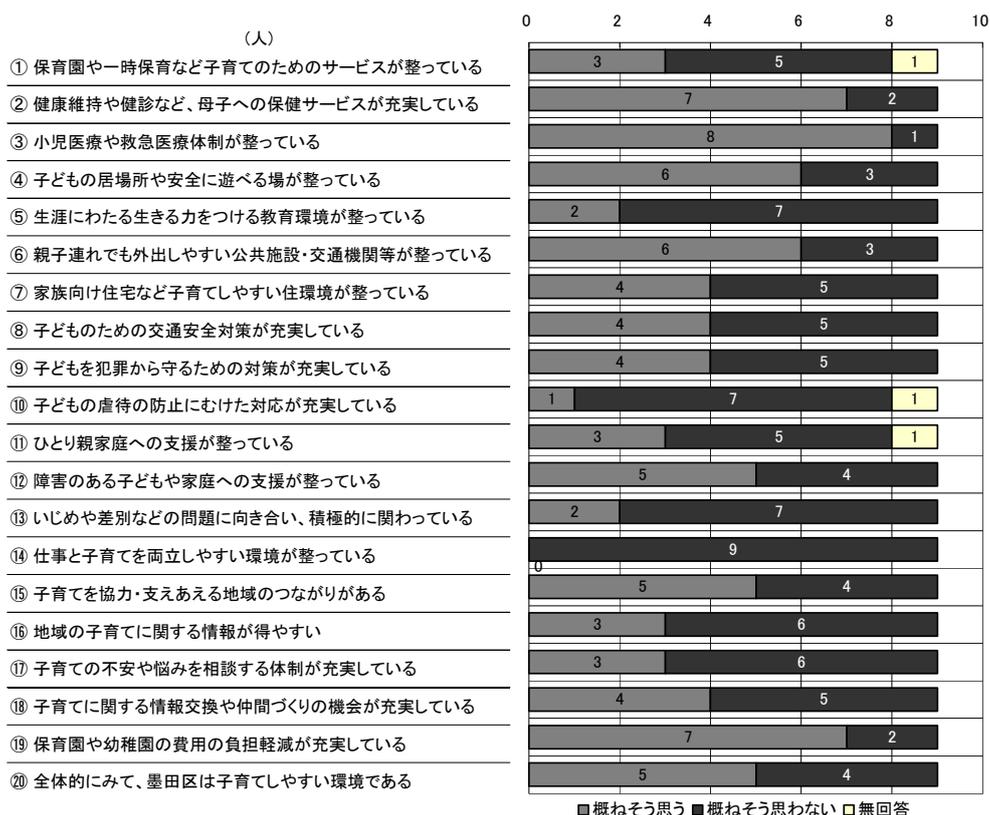
また、「⑫ 障害のある子どもや家庭への支援が整っている」については評価が拮抗しました。

参考として、ニーズ調査（乳幼児調査）における同問の結果と比べ、“概ねそう思わない”（評価しない）が著しく多い項目は、「⑭ 仕事と子育てを両立しやすい環境が整っている」「⑰ 子育ての不安や悩みを相談する体制が充実している」となっています。

教育や将来の職業的自立も含め、成長段階に応じた不安と、日々の時間を全力で子育てに充てる保護者（母親）の不安がうかがわれる結果と考えられます。

なお、発達に心配がある児童の調査は回答者が9人と少数であるため、比率でみることは適切ではありませんが、課題を探る一つの手がかりとして記載しています。

図表 8 お子さんを育てていく上で、墨田区の環境をどのように感じていますか



<参考>

(%)	事前調査シートによる発達に心配がある児童の調査(回答者 9人)			ニーズ調査(乳幼児)(回答者1,203人)		
	概ねそう思う	概ねそう思わない	無回答	概ねそう思う	概ねそう思わない	無回答
⑭ 仕事と子育てを両立しやすい環境が整っている	0.0	100.0	0.0	22.8	74.0	3.1
⑰ 子育ての不安や悩みを相談する体制が充実している	33.3	66.7	0.0	44.5	53.1	2.4

注：発達に心配がある児童の調査は回答者が9人であり、比率(%)でみることは注意が必要です

⑩ 区に対する要望

墨田区の子育て環境評価の結果を手がかりに、事前調査シートの自由意見や当日の発言から、主な要望を次のように整理しました。

[幼稚園の特別支援枠について]

- ・各区立幼稚園の特別支援枠の増設を（2～3名は少ない）
- ・墨田区に支援学校に幼稚部の設置を（他区にあり）

[療育施設等の配置について]

- ・区南部に固定学級や療育施設を

[乳幼児健診の拡充と健診時の配慮]

- ・乳幼児健診の回数の拡充を
- ・病院や健診時などの待ち時間の短縮を（健診時の特別支援枠で申込みをしても配慮がない）

[遊び場の確保]

- ・障害児が安心して遊べる施設、雨の日に遊ぶ場所を
- ・放課後を過ごす場を
- ・障害児のスポーツ活動の場を
- ・障害児が安心して参加できるイベントや施設を

[特別支援学級について]

- ・小・中学校に情緒障害固定学級の設置を（墨田区の現状では、固定学級は知的障害のみで情緒障害はない）
- ・通常学級にいる軽度やグレーゾーン、未診断の児童への支援を
- ・普通学級教員と連携指導していくため、巡回指導担当教員の設置を
- ・普通学級での個別指導の充実を
- ・療育期間を中学生まで拡大し、利用回数の拡充を
- ・将来の適性をみるためにも、中学生頃から積極的な職場体験を
- ・低学年から不登校児に対する教育機会の確保を（知的固定学級では学ぶ機会を確保できない）

[通園支援]

- ・通級の送迎支援（費用の負担が大きい）

[発達障害への理解]

- ・固定学級や通級学級のない学校の生徒・児童や保護者にも障害への理解の普及を

[その他]

- ・区役所職員の対応に差がある

⑪ 発達に心配がある児童の保護者へのインタビューのまとめ

知的、身体、精神の3障害に比べ、発達障害児の支援は全国的に取組が遅れています。

従来から行われてきた、要配慮状態の発見と相談から支援への一貫した支援体制について、さらに充実していくことが必要です。また、発達障害や療育に対する不安を解消していくためには、母親だけでなく父親等家族に対し、丁寧な説明が求められています。

教育・保育の現場である幼稚園、保育園や地域の子育て支援施設、乳幼児健診・相談にあたる保健師などで、発達障害への理解やスキルに差がみられるようです。学校の教職員等も含め、発達障害への正しい理解と対応力の向上が必要です。

さらに、児童発達支援が小学3年生で終わってしまうと不安に思う保護者が多いことから、その後の支援体制をわかりやすく示し、相談に応じていくことも求められます。

最後に、このような会を今後も開いてほしいという声が少なくなかったことを報告するとともに、今回のインタビューで、正しい情報が伝わっていないあるいは情報不足の状況がうかがわれたことから、同じ悩みをもつ保護者同士の情報交換や交流の場について、発達に心配がある児童の保護者への配慮が必要です。

4 高校生へのインタビュー調査実施の概要

① 実施目的

墨田区子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、ニーズ調査（成人前調査）の対象となる高校生について、アンケートの掘り下げや生の声を聞くため、聞き取りによる調査を行いました。

② 実施方法等

懇談会形式により下表の通り実施しました。実施にあたっては事前に簡易な調査シートを配布して記入を依頼しました（インタビュー当日に回収）。

実施日・時間・場所	参加人数	参加者	事務局
平成 25 年 12 月 16 日 午後 14 時 30 分～15 時 20 分 都立両国高校会議室	16 人(男子 11 人・女子 5 人)	高校 1 年生 (墨田区在住者)	子育て計画課 2 人 (株)ぎょうせい 2 人

③ テーマ

固定的な性別役割分担意識について、家庭や家族の状況、将来の結婚や家庭生活について、大人社会へのメッセージ等

5 高校生へのインタビュー調査結果

① 家庭の状況

兄弟姉妹がいる家庭は男子で 8 人（72.7%）、女子で 3 人（60.0%）、祖父母がいる家庭は 2 人（男子のみ）、母親の就労状況については、女子は 5 人全員、男子は 8 人（72.7%）となっています。

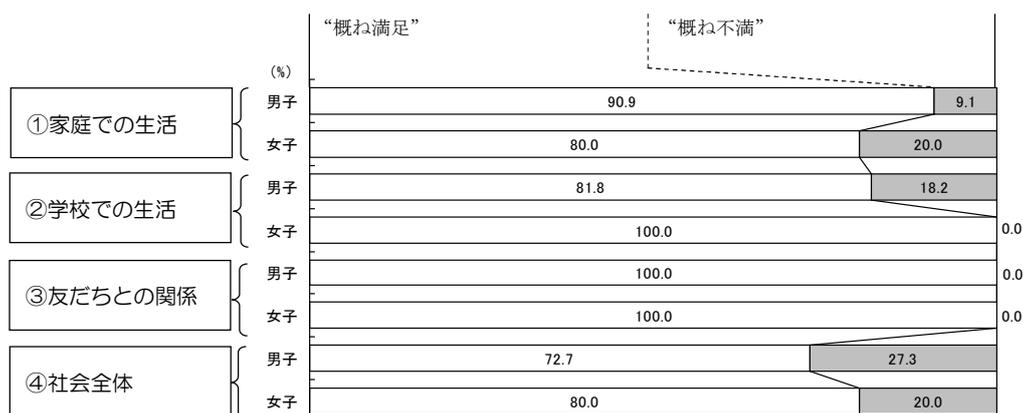
図表 9 家族の状況と母親の就労状況

上段: 人 / 下段: %	合計	兄弟姉妹がいる	祖父母がいる	母親が働いている	母親が働いていない
男子	11	8	2	8	3
	100.0	72.7	18.2	72.7	27.3
女子	5	3	0	5	0
	100.0	60.0	0.0	100.0	0.0

② 現在の生活の満足度

【③友だちとの関係】は男女ともに全員が“概ね満足”です。【①家庭での生活】【②学校での生活】については“概ね不満”がみられるものの、ほとんどが満足しているとの回答でした。一方、【④社会全体】については①～③の項目に比べ、男子も女子も“概ね不満”がみられます。

図表 10 ①～④についてどれくらい満足していますか



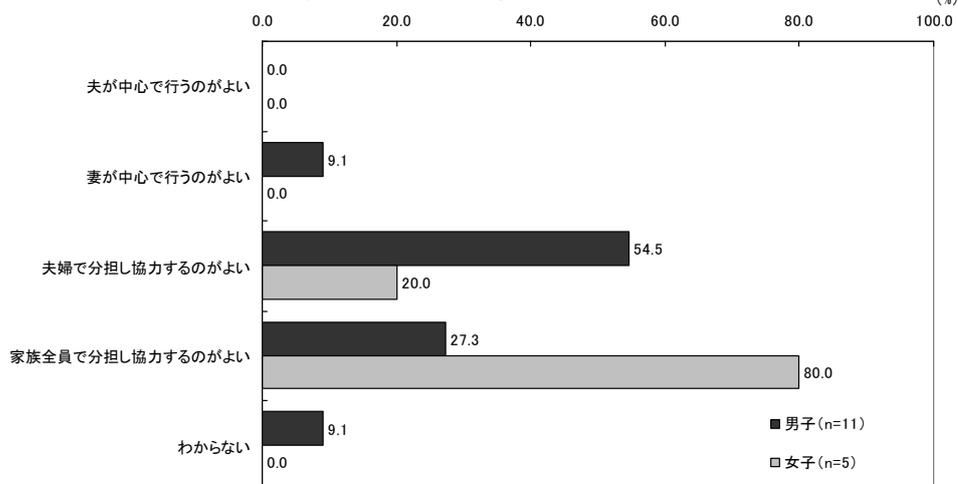
次表は、社会全体について満足（不満）なことを尋ねた結果です。
 満足のキーワードとしては、自由、便利、平和、安全などとなっています。
 不満について、件数では男子が多く、身近な生活に直結する事柄となっており、女子は大人社会への批判が挙がりました。

社会全体について満足なこと		社会全体について不満なこと	
特に不自由していないこと	女子	上の人たちが自分のことしか考えてない自己中心的自分を犠牲にしてでも社会をよくするべき	女子
ある程度自由	男子	自転車専用の道路や駐輪場が不足	男子
平和だから	男子	不況	男子
治安が良く平和	女子	医療や福祉の不足	男子
平和に楽しく過ごせる	女子		
住んでいる地域が安全	男子		
日本はとても治安が良く、安心して生活できる	男子		
交通機関の充実、ネットなどですぐに情報が得られる	男子		
不自由なく生活できているが、改善してほしい点も多くある	男子		
普通の生活を送ることができる	男子		

③ 家庭内の育児・家事の分担についての考え方

男子は「夫婦で分担し協力するのがよい」が6人（54.5%）と最も多く、女子は「家族全員で分担し協力するのがよい」が4人（80.0%）で圧倒的多数となっています。なお、男子で「妻が中心で行うのがよい」が1人（9.1%）見受けられました。

図表 11 家庭での子育てや家事は、どのようにするのがよいと思いますか (%)

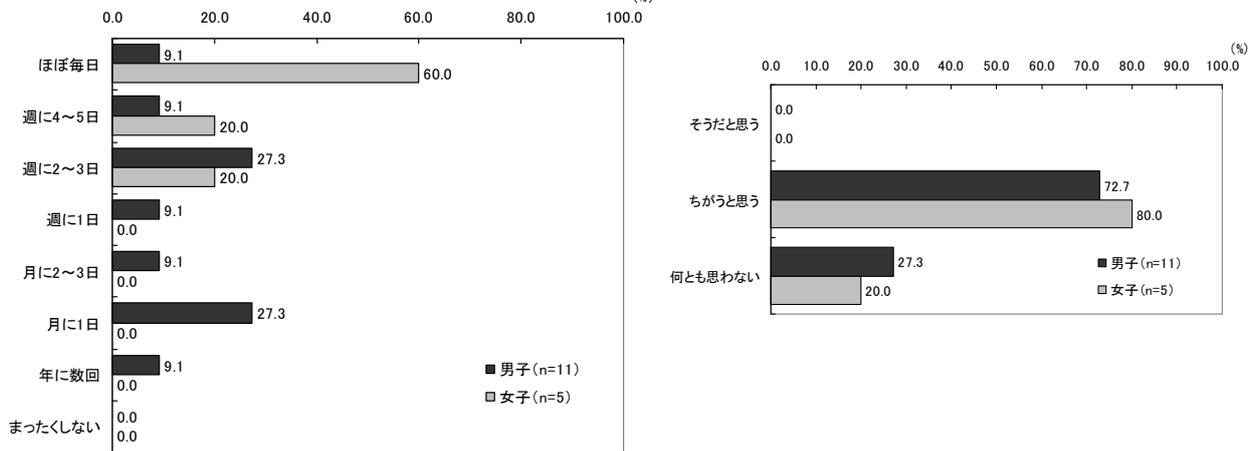


④ 家の用事（掃除・洗濯・食事の支度・買い物等）の手伝いの状況と考え方

「ほぼ毎日」が女子で60.0%（男子は9.1%）など、女子で頻度が高いのに対し、男子は「週2～3回」及び「月に1日」が最も多く、「年に数回」も見受けられました。

【女の子は家の手伝いをすればいい、男の子は勉強すべき】という考え方については、男子も女子も多くは「ちがうと思う」と回答しています。またそうしたことを言われた経験は、男子・女子ともに全員がないと答えています。

図表 12 家の手伝いの状況(左図)と家事に対する考え方(右図)

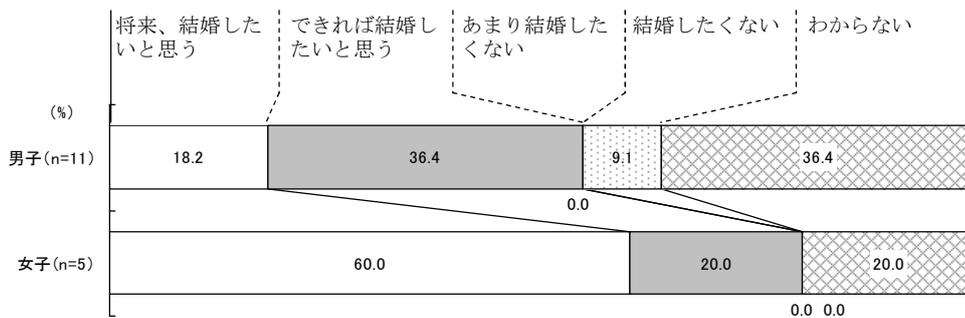


⑤ 結婚観・家庭観

女子は「将来、結婚したいと思う」が3人（60%）で最も多くなりましたが、男子は「できれば結婚したいと思う」と「わからない」がそれぞれ4人（36.4%）となっています（図表 13）。

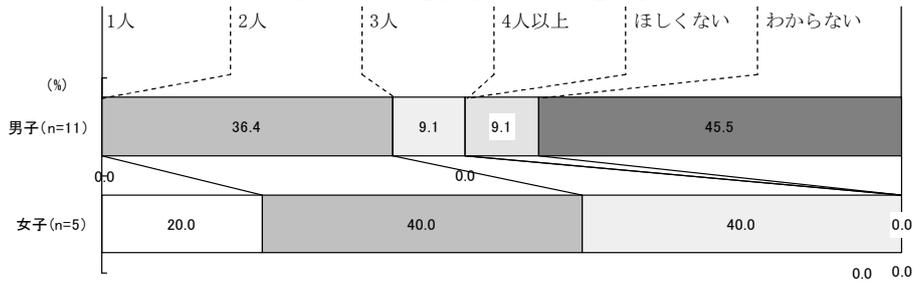
子どもを何人ほしいかについて、女子は具体的な人数を挙げているのに対し、男子は「わからない」が半数近くとなっています（図表 14）。

図表 13 結婚したいと思いますか



上段: 人 / 下段: %	合計	将来、結婚したいと思う	できれば結婚したいと思う	あまり結婚したくない	結婚したくない	わからない
男子	11	2	4	0	1	4
	100.0	18.2	36.4	0.0	9.1	36.4
女子	5	3	1	0	0	1
	100.0	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0

図表 14 子どもを何人ほしいと思いますか



上段:人/下段:%	合計	1人	2人	3人	4人以上	ほしくない	わからない
男子	11	0	4	1	0	1	5
	100.0	0.0	36.4	9.1	0.0	9.1	45.5
女子	5	1	2	2	0	0	0
	100.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0

【①結婚は個人の自由だから、結婚しなくてもよい】については男女間で大きな相違はみられませんでした。

一方、子どもに関わることについては男女間の差がみられました。

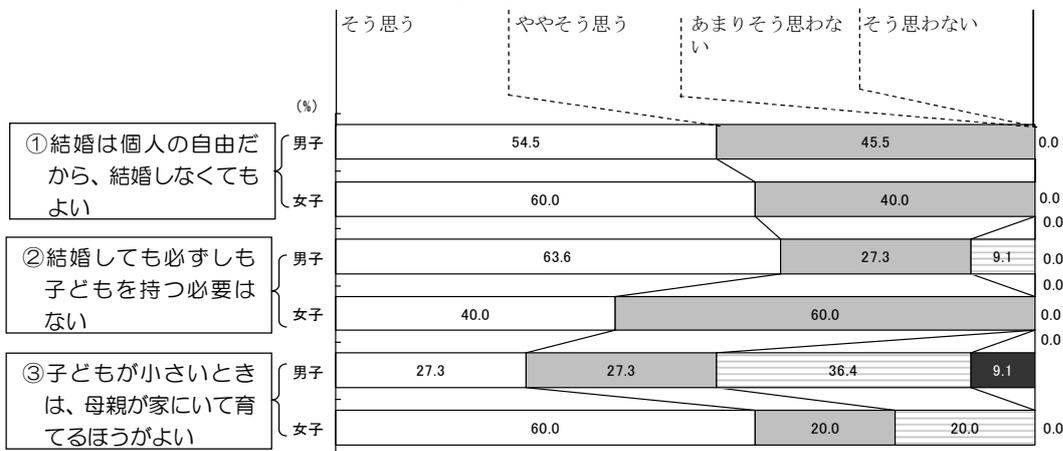
【②結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】について、男子は「そう思う」と明確な肯定派が多いのに対し、女子は「ややそう思う」が多くなっています。

また、【③子どもが小さいときは、母親が家にいて育てるほうがよい】については、女子では8割が肯定派（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）ですが、男子は5割台となっています。

回答理由を聞いたところ、女子は子育てに専念したいとする意見が多く、男子もややその傾向があるものの、女子ほどではありませんでした。

付随して、夫婦の収入について、夫より妻の収入が多い場合どう思うかと質問したところ、「情けない。負けた気がする。貢献できていない気がする」「最終的には子どもができて仕事を辞めてもらうことになると思う。自分が働いて収入が多い方が経済的に生活が楽になる」と発言する男子も見受けられました。

図表 15 ①～③の考え方についてどう思いますか



	上段:人/下段:%	合計	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
①結婚は個人の自由だから、結婚しなくてもよい	男子	11	6	5	0	0
		100.0	54.5	45.5	0.0	0.0
	女子	5	3	2	0	0
		100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
②結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	男子	11	7	3	1	0
		100.0	63.6	27.3	9.1	0.0
	女子	5	2	3	0	0
		100.0	40.0	60.0	0.0	0.0
③子どもが小さいときは、母親が家にいて育てるほうがよい	男子	11	3	3	4	1
		100.0	27.3	27.3	36.4	9.1
	女子	5	3	1	1	0
		100.0	60.0	20.0	20.0	0.0

【③子どもが小さいときは、母親が家にいて育てるほうがよい】の回答理由

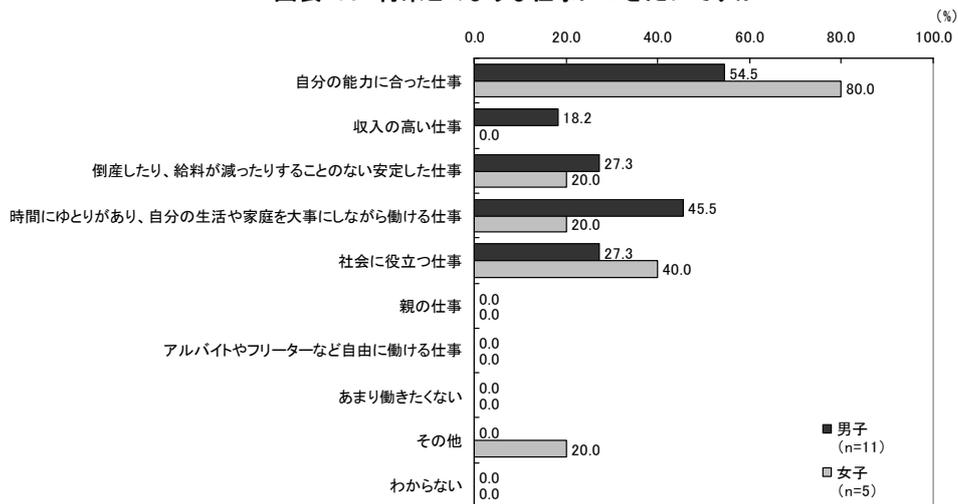
③について肯定派の理由		③について否定派の理由	
家庭の事情で経済的に厳しければ、仕事に出てもいいが、子どもだけでは危ないと思う	男子	子どもは夫婦二人でみるべき	男子
子育てに関わってほしいが、子どもが大きくなったら仕事に専念してほしい	男子	私を出産したときに仕事を辞め、その後仕事に戻るのがたいへんだったと聞いたことがあるので、女性も男性と同じように仕事を続けられるといいと思う	女子
できれば仕事を辞め、子育てに専念した方がいいし、子どもが大きくなってもそのまま家にいたい	女子		

⑥ 職業観

男子・女子ともに「自分の能力に合った仕事」が最も多く、女子では4人(80.0%)に上ります。2番目以降について、男子は「時間にゆとりがあり、自分の生活や家庭を大事にしながら働ける仕事」→「倒産したり、給料が減ったりすることのない安定した仕事」及び「社会に役立つ仕事」→「収入の高い仕事」の順です。

一方、女子は「社会に役立つ仕事」→「倒産したり、給料が減ったりすることのない安定した仕事」及び「時間にゆとりがあり、自分の生活や家庭を大事にしながら働ける仕事」の順となっています。なお、女子では「収入の高い仕事」は回答がありません。

図表 16 将来どのような仕事につきたいですか

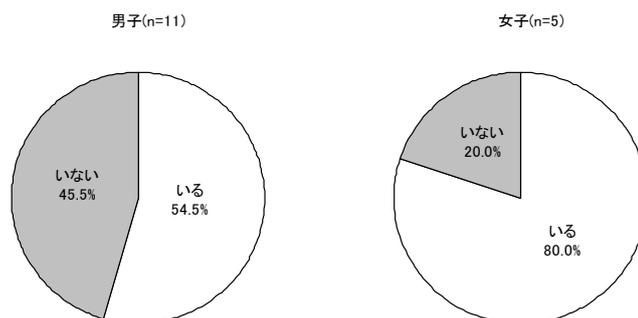


⑦ 規範意識と家庭・地域社会

周囲に尊敬できる人がいるのは、男子で54.5%、女子では80.0%となっています。

尊敬する理由として挙げたキーワードは、明確な姿勢、実行、広い知識や判断力、公平、努力、奉仕などとなっており、両親や祖父母等家族・親族や地域の大人など身近な人の行動が少なからず子どもに大きな影響を与えていることがわかります。

図表 17 家族、親族や家族の友人、地域の人も含め、周囲に尊敬する人はいますか



尊敬する理由	
自分の考えをはっきり言える	女子
やるべきことはちゃんとやる	男子
誰に対してもよく接する	男子
毎日仕事も家のこともしている	女子
努力を絶えず続けている	女子
大人として正しいことを教えてくれる	女子
家事を不満も言わずに行っている	男子
なにか問題が起こった時に瞬時に最善の判断ができる	男子
近所の人々が道路を毎朝掃除してくださっている	男子
知識が多い	男子

⑧ 区への希望

歩きタバコを禁止するための条例をもっと厳しくして、なくしてほしい	男子
スポーツへの予算を増やしてほしい	男子
河川敷の整備をもっと進めてほしい	
公園の整備を進めてほしい	
ボールを使って遊べる場所を増やしてほしい	
図書館設備の充実	男子
ひきふね図書館の駐輪場が少ない点を改善してほしい	男子
短期留学の支援制度	男子
図書館が本当にありがたい	男子

⑨ 高校生へのインタビューのまとめ

女性の継続就業率の向上が我が国全体の課題となっています（「第一子出産前後の女性の継続就業率：平成17年で38%、平成32年の目標は55%）。次代を担う高校生の考えをきくと、我が国で多い「結婚したら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事をする」（一時中断型）が今後も続くのではないかと考えられます。

また、男性の収入の方が女性より多ければならないという考え方が高校生にもうかがわれ、「男は仕事、女は家庭が向いている」とする固定的な性別役割分担意識が根強いことがわかりました。働き盛りの男性が倒産や失業など経済的な理由で自殺に追い込まれる原因の一つに、こうした固定的な役割分担意識が潜在的にあるためといわれています。

現状の生活をみると、家庭の手伝いをしている女子が多い一方で、男子の手伝いの頻度はたいへん低い状況です。結婚や育児など近い将来のライフコースについて、女子は明確な意向をもっているようですが、多くの男子にはあまりみられませんでした。

家庭も子育ても夫婦で、家族で担うとする考え方は浸透していますが、現実では生活自立は女子が高く、男子で低い現状がうかがわれます。

最後に、ニーズ調査では、仕事と育児の両立支援（子どもができて仕事も継続する）の課題の第1位として“夫や家族の協力”が挙げられますが、家庭生活における役割分担について、次の代表的な意見を紹介し、家庭における保護者の姿勢の連鎖という課題を提起します。



「自分が料理ができないことを考えると、夫と妻で役割分担した方がいい。家では母が全部しており、手伝いをしてとはあまり言われたい」（男子）



「父が働きながら家事をしてくれている。日曜日も料理を作ったり、掃除をしてくれたりする。できる限り父親も家事全般ができるほうがいい。いいお父さんだと思う」（女子）